

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 11 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現代建築(木造)による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込み、開放感を感じられ、心が和む造りとなっています。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、一つ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり共同生活を送る。施設の利用者は私達の父であり母であると思いついて対応する、また利用者同士は兄弟姉妹として生活を共にする。私達が目指す『大家族主義』の理念を基本にして共同生活住居(グループホーム)において食事や排泄、入浴等の介護や日常生活上のお世話をさせて頂く際には、個々の能力に応じ、手を出し過ぎないようにして自立した生活を送って頂けるよう取り組んでいます。現在のコロナ禍の中でも、徹底した感染対策した上での面会をして頂いたり、リモート面会・窓越し面会して頂きながら、ご家族との関係が途切れないような工夫をしています。地域との関係も維持できるように、運営推進会議を開き運営状況等の紹介をして、意見等を頂きながら今後の施設運営に活かせるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3577200920-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に愛され見守られている施設である。近所のガソリンスタンドの職員が、利用者をたまたま発見すると「あれ？」と不思議に思い、すぐ連絡をくれる。大事に至らぬよう地域の見守りがあり、此処にグループホームがあるという認知が近隣に知れ渡っている。職員の絶え間ない努力からか、地域がアピールしてくれ、ご縁が深くなり施設の行事への参加につながっている。そんな周知も職員の明るさから生まれ、管理者曰く「とくに管理者が明るい」と付け足すほどユニークである。問題があれば、月1回のミーティングの中でしっかりと話し、解決にもつなげている。施設内はとても家庭的で、利用者の楽しみは、手作りの食事がおいしい事だと自慢されていた。材料は冷蔵庫と相談しながらアレンジし、頂き物は上手に活用して口に合う食事を施している。管理者のこだわりは、1日に1回必ず笑わせる事。毎日の仕事の生きがいであり、「自画自賛」と自慢気に語ってくれた。また、それを背中で受け止める職員がいて、素直に話を聞き入れることからお互いを知り、まわりまわって心の癒しとなっていた。話し合うことが、連携プレーの第一歩の踏み出しで、「みんなが待っているから仕事に行こう」を合言葉に、敬う架け橋となる事で、輝きある施設となっていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の家族だったらどうするかを考えて対応することで、事業所の理念『大家族主義』の実践につなげている	理念は玄関フロアに掲示されていて、外部の人でも理念を知ることが出来る。事業所全体が家族となって、支えあっている。代表者も月に1回の職員会議に参加し、理念に沿ったケアに繋げている。	外部から訪問された方にも、さらに理念が伝わるような工夫をしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域住民から虹情報発信を楽しみにしているとの言葉を頂き、なるべく毎月発信して施設の運営を知って頂けるように努めている。地域の一員として近隣の草刈り等も定期的に行っている	地域性が良く、近隣の会社や住民との連絡の行き来もあり、地域全体で事業所を支えられている。事業所として町内会へは加入していないが、草刈り等に参加して地域に貢献している。近くにゴミステーションを設置し、ゴミ捨ての時に挨拶をして顔の繋がる関係を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への情報発信で介護の一口メモを載せたり、運営推進会議では行った研修の報告をして認知症の支援を理解して頂けるように取り組んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分達が行っている支援の振り返りや考え方の見直しができることは理解できていると思う。業務に追われるのが現状にあり、改善に向けて努力はしていると思う	自己評価を行うことで、改めてケアを見直す機会となっている。コロナ禍で業務に追われている事が多いので、出来る事から少しずつ改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に代表者から方針の提示をされているので、その実践状況の評価を行い、運営推進会議にて報告をして意見交換をしている	自治会長、近隣住民、第三者委員、地域包括支援センター、家族、施設代表者、利用者が委員となっている。会議の中で、職員の顔が分からないとの意見があり、玄関ホールへ職員写真の掲示を始めた。	運営推進委員会のメンバーを増やし、多方面の意見を取り入れてみてはいかがでしょうか。
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス上で起きた事故等の内容を伝え、助言や指導を受けて協力関係を築けるように取り組んでいる	事故の内容以外に介護保険法の改正時にも分からないことがあれば聞ける関係が出来ている。担当者も真摯に答え、連絡や相談がしやすい関係づくりが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修をして禁止となる具体的な行為については理解しているが、現状として1件身体拘束例がある。身体拘束をしないケアに向けて拘束しない時間を作る等、解除していけるように取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員を開催している。拘束にかかわりそうな事例を話し合い、拘束が起きないように取り組んでいる。言葉による抑制についても話し合い、どのような言葉かけが適切なのか検討している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止について学ぶ機会を作っている。職員の精神的ストレスを考え、職員交代する等の工夫をしながら虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、後見制度について学ぶ機会を作っている。現在1名の方が後見制度を利用されており、後見人には状態の報告をしながら必要な支援が受けられるように協力している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解し納得した上で契約して頂けるように、疑問や不安な事があれば時間をかけて具体的に説明をしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明をしている。利用者やご家族と話しやすい関係作りに努めている。意見や要望が出た場合は職員に伝わるように申し送りノートへ記載している	利用者の意見は、普段の会話から聞き取っている。意見の言いにくい利用者は、表情を観察し意向の確認をしている。理念の通り、利用者・職員が家族のように親身に関わっているため、キーパーソンも話しやすい関係が出来ている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や幹部会議において職員の意見や要望を伝える機会がある	職員と管理者は何でも話せる関係が出来ていて、職員からの意見を取りまとめている。内容によっては、施設代表者と話し合うこともある。家庭環境に合わせた勤務体制を取るなど、可能な限り要望に応えるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の実績、勤務状況等を一律で評価し給与水準の整備に努めている。育児休業規定も整備され、安心して復帰できる職場環境にある		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は控えているが、内部研修等で働きながらトレーニングすることを進めている。資格取得の際、受験料は事業所が負担をしている	年間予定を立て、月に1回の内部研修を実施している。月ごとにテーマを決めて、緊急時や感染症予防などの研修を開催し、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お花見や運動会等を同系列の施設が合同で行い企画や準備等で協働している。また他施設での救命講習に参加させて頂き、質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔でご本人と向き合うことを基本として、目線の高さを同じにして話をする等、安心感を得られるように努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい関係作りに努め、何に困り悩んでいるのか引き出せるように努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス等でご本人の状態を知る努力をして必要な支援を見極められるように努めている。状態に応じ、見合った施設を紹介することもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上の仕事(洗濯物たたみや食器洗い等)で家庭での暮らしを思い出して頂き、協働しながら関係を築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や精神状態をご家族に伝えながら、ご家族から話をして頂くこともあり、職員とご家族で情報共有をして、本人を支えていけるように関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に携帯電話を使って頂いたり、手紙のやりとりをしている。遠方のご家族とはリモート面会を勧め関係が途切れないように努めている	関連施設と合同で、花見や運動会、クリスマス会を開催し、事業所の垣根を越えた関係作りが出来る。定期的に顔を合わせることで、今までの馴染みの関係に、新たな馴染みも増え、笑顔があふれる集まりになっている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の把握に努め、孤立しないように職員が介入して利用者同士が関われるように努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を大切に、ご本人やご家族の経過をフォローし相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で普段の生活の様子や身体状態の情報を共有して、本人本位で検討をしている	入浴や散歩時間は、職員と利用者がマンツーマンとなるため、利用者も気安く意向を話し、楽しい話となっている。利用者が少しでも快適に過ごしてもらえるように、聞き取った意向は職員間で共有し、統一したケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り調査を行い、日々の会話の中からも情報を聞き出せるように取り組んでいる		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェックで健康状態の確認をしながら、会話から心身状態を探る。手を出し過ぎない支援を心掛けている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はユニット会議で意見交換をして現状に即した介護計画を作成したり、見直しをしている	新規利用から2ヶ月以内にプランの見直しをしている。その後は3ヶ月ごとにプランの検討をしている。日常的な変化は、申し送り等で情報共有をしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、特に通常と変化がある場合は記載するようにしている。個人毎に医療ノートを作成して状態確認できるようにしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では主治医と連携をとり、安全に過ごして頂けるように対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全に楽しく過ごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及び本人が希望されるかかりつけ医に定期的な受診体制ができています。また受診時等では主治医に情報提供を行い適切な医療が受けられるように努めている	協力医が月に1回訪問診療をしている。訪問歯科や他科受診についても職員が対応し、日常の変化や気づきを医師に直接説明することで、医療との関係性が深くなっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	R3.9から看護師を配置している。看護師には変化や気づきを報告し早めの対応を心掛けている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には身体及び心身状態を書面で提供している。ご家族からも情報を頂きながら、病院関係者と連絡を取り合い早期退院できるように取り組んでいる		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があれば、ご家族へどう変わっているか等の報告をして、必要に応じ話し合いを持ち、今後の方向性を決めて支援に取り組んでいる	看取り介護の対応もして、利用者の状態に応じて本人・家族や医師と話し合い、ケアの方向性を決めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	応急手当や急変時の対応等は定期的に研修を行っている。11月に離館が発生し、見守りやマニュアル確認を行った。R3.10には看護師指導による研修を行った	緊急時に備えて定期的な研修を実施している。離館時は、近隣のガソリンスタンドから連絡があり、地域の協力もみられた。離館の再発予防のため、施設入り口の門扉が設置された。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行っている。内1回は消防派遣をお願いして、避難の様子の指摘や助言を頂き、職員間で検討している。コロナ感染の状況により地域住民の参加をお願いしている	非常災害に備えて、緊急連絡網に近隣の住民も入っている。ハザードマップ上では、災害区域ではないが、実際に避難場所まで避難したこともあり、避難経路の注意点も話し合っている。水、食料品、栄養補助食品などを備蓄していて、賞味期限を確認しながら更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プラス一言を添えて否定しない声かけの工夫をしている。プライバシー配慮しながら自己選択ができるような対応を心掛けている	呼称は「～さん」としている。認知症を患われている、年長者であることを忘れず、敬意を持った対応を心掛けている。手が離せず、直ぐに対応ができない時は、利用者に状況を説明し、理解してもらっている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動、表情に気を配り、視線を合わす等で思いが伝えやすい関係づくりに努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、利用者の動きに合わせることを基本としているが、業務優先傾向にある。今後も認知症研修を行い思いに寄り添えるように努めていきたいと考える		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化に伴い衣替えをしたり、好きな服が選べるように支援をしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶出し等、出来る事を分担して行っている。食事は職員が間に入り、昔の話、好みの食べ物の話等、色んな会話をしながら食べる様子も見て、楽しく安全に食事をしている	本部の管理栄養士が季節に応じた献立を考えているが、調理はユニットごとに調理担当の職員がいて、家庭的な食事を提供している。地元の食材が届けば、一品加えて食卓を賑わせる事もある。誕生日には、利用者と一緒にケーキを作ってユニット全体で祝っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたバランスのとれた献立に基づき、個々の能力に合わせて、普通食、刻み食、ミキサー食を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導も得ながら、個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して事前の声かけを心掛け、できるだけトイレで排泄できるように支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を使っている。排便状況も確認し、下剤等の調整にも役立っている。布パンツへ変更が出来るような利用者から「紙パンツの方が暖かい」と言われ、変更しないで様子を見ている事例もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、適度な運動で便秘予防をしている。便秘傾向の方は医師に相談をして緩下剤等で排便につながるように取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日は決めているが、希望やタイミングに合わせて対応をしている。個浴でゆっくり時間をかけて対応している	決められた入浴パターンにとらわれず、利用者の状況に合わせて対応している。冬至の日は、ゆず湯を楽しんでいた。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を心掛けているが、個々の状態により休息も取り入れた対応をしている。夜間はパッド等の見直ししながら安眠できるように支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の医療ノートを作成しており、状態変化はノートで確認できるようにしている。臨時薬がある場合は併せて申し送りノートに記載し、症状の変化の確認に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて役割づくりに取り組んでいる。個別に会話したり、散歩して気分転換ができるように支援している	利用者からの情報を基に、利用者が活躍できる場面を作っている。餅つきの時には、とても良い表情を見せながら慣れた手つきで餅を丸める姿もあった。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できない月もあったが、出来るだけ近隣を散歩したり、ドライブに出かける等、外出する楽しみを感じて頂けるように支援している	近所に藤の花やびわなどが見れる場所があり、外に出かける楽しみにもなっている。近くに駅広場もあり、桜や電車を眺めている。近隣までのドライブもしており、四季を味わい、春夏秋冬それぞれの風情を肌感じて頂いている。外出が難しい時期に施設内で初詣が出来るように鳥居を作って、手を合わせる姿が感動的だった。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中でお金を持ってないと不安になられる方もおられ、個人で管理をして頂いている。時には一緒に買い物に行って支払いされることもある		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方もおられ、充電等を管理して、好きな時に使って頂けるように支援している。手紙を書く機会はあまりないが、届いた手紙はご本人に渡し見て頂いている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は共有のフロアで過ごされる方が多いが、中には自室でテレビを見たり、雑誌を見る、横になる方もおられます。電気をつけたりエアコンで温度管理しながら、快適に過ごせるような工夫をしている	リビングに天窓もあり、自然の光が降り注いでいる。天井にシーリングファンもあり、空気も循環して快適な室温管理が出来ている。不快な音や匂いも無く、穏やかな空間が漂っていて、整理整頓も職員が気配りを以って整わせている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアに畳を置いて、新聞を大きく広げて読まれたり、生活リハビリとして洗濯物をたたむ場所として自由に使っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、使い慣れた家具を置いて頂き、ご自分の部屋と認識して頂けるような工夫をしている	ベッド・エアコン・カーテンが備え付けとなっている。自宅で馴染んだものを持ち込み、我が家らしく自由に置くことが出来る。自宅と変わらない生活を送って頂き、テレビや仏壇、家族の写真などで一人ひとりに合った居場所づくりをして、時の過ぎゆくままに落ち着いて過ごしていた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは段差なく安全に移動できる造りとなっている。トイレやお風呂にも手すりがあり、ご本人のできることをして頂きながら、できるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 11 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現代建築(木造)による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込み、開放感を感じられ、心が和む造りとなっています。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、一つ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり共同生活を送る。施設の利用者は私達の父であり母であると思いついて対応する、また利用者同士は兄弟姉妹として生活を共にする。私達が目指す『大家族主義』の理念を基本にして共同生活住居(グループホーム)において食事や排泄、入浴等の介護や日常生活上のお世話をさせて頂く際には、個々の能力に応じ、手を出し過ぎないようにして自立した生活を送って頂けるよう取り組んでいます。現在のコロナ禍の中でも、徹底した感染対策した上での面会をして頂いたり、リモート面会・窓越し面会して頂きながら、ご家族との関係が途切れないような工夫をしています。地域との関係も維持できるように、運営推進会議を開き運営状況等の紹介をして、意見等を頂きながら今後の施設運営に活かせるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3577200920-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に愛され見守られている施設である。近所のガソリンスタンドの職員が、利用者をたまたま発見すると「あれ？」と不思議に思い、すぐ連絡をくれる。大事に至らぬよう地域の見守りがあり、此処にグループホームがあるという認知が近隣に知れ渡っている。職員の絶え間ない努力からか、地域がアピールしてくれ、ご縁が深くなり施設の行事への参加につながっている。そんな周知も職員の明るさから生まれ、管理者曰く「とくに管理者が明るい」と付け足すほどユニークである。問題があれば、月1回のミーティングの中でしっかりと話し、解決にもつなげている。施設内はほとんど家庭的で、利用者の楽しみは、手作りの食事がおいしい事だと自慢されていた。材料は冷蔵庫と相談しながらアレンジし、頂き物は上手に活用して口に合う食事を施している。管理者のこだわりは、1日に1回必ず笑わせる事。毎日の仕事の生きがいであり、「自画自賛」と自慢気に語ってくれた。また、それを背中で受け止める職員がいて、素直に話を聞き入れることからお互いを知り、まわりまわって心の癒しとなっていた。話し合うことが、連携プレーの第一歩の踏み出しで、「みんなが待っているから仕事に行こう」を合言葉に、敬う架け橋となる事で、輝きある施設となっていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の家族だったらどうするかを考えて対応することで、事業所の理念『大家族主義』の実践につなげている	理念は玄関フロアに掲示されていて、外部の人でも理念を知ることが出来る。事業所全体が家族となって、支えあっている。代表者も月に1回の職員会議に参加し、理念に沿ったケアに繋げている。	外部から訪問された方にも、さらに理念が伝わるような工夫をしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域住民から虹情報発信を楽しみにしているとの言葉を頂き、なるべく毎月発信して施設の運営を知って頂けるように努めている。地域の一員として近隣の草刈り等も定期的に行っている	地域性が良く、近隣の会社や住民との連絡の行き来もあり、地域全体で事業所を支えられている。事業所として町内会へは加入していないが、草刈り等に参加して地域に貢献している。近くにゴミステーションを設置し、ゴミ捨ての時に挨拶をして顔の繋がる関係を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への情報発信で介護の一口メモを載せたり、運営推進会議では行った研修の報告をして認知症の支援を理解して頂けるように取り組んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分達が行っている支援の振り返りや考え方の見直しができることは理解できていると思う。業務に追われるのが現状にあり、改善に向けて努力はしていると思う	自己評価を行うことで、改めてケアを見直す機会となっている。コロナ禍で業務に追われている事が多いので、出来る事から少しずつ改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に代表者から方針の提示をされているので、その実践状況の評価を行い、運営推進会議にて報告をして意見交換をしている	自治会長、近隣住民、第三者委員、地域包括支援センター、家族、施設代表者、利用者が委員となっている。会議の中で、職員の顔が分からないとの意見があり、玄関ホールへ職員写真の掲示を始めた。	運営推進委員会のメンバーを増やし、多方面の意見を取り入れてみてはいかがでしょうか。
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス上で起きた事故等の内容を伝え、助言や指導を受けて協力関係を築けるように取り組んでいる	事故の内容以外に介護保険法の改正時にも分からないことがあれば聞ける関係が出来ている。担当者も真摯に答え、連絡や相談がしやすい関係づくりが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修をして禁止となる具体的な行為については理解しているが、現状として1件身体拘束例がある。身体拘束をしないケアに向けて拘束しない時間を作る等、解除していけるように取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員を開催している。拘束にかかわりそうな事例を話し合い、拘束が起きないように取り組んでいる。言葉による抑制についても話し合い、どのような言葉かけが適切なのか検討している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待防止について学ぶ機会を作っている。職員の精神的ストレスを考え、職員交代する等の工夫をしながら虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、後見制度について学ぶ機会を作っている。現在1名の方が後見制度を利用されており、後見人には状態の報告をしながら必要な支援が受けられるように協力している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解し納得した上で契約して頂けるように、疑問や不安な事があれば時間をかけて具体的に説明をしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明をしている。利用者やご家族と話しやすい関係作りに努めている。意見や要望が出た場合は職員に伝わるように申し送りノートへ記載している	利用者の意見は、普段の会話から聞き取っている。意見の言いにくい利用者は、表情を観察し意向の確認をしている。理念の通り、利用者・職員が家族のように親身に関わっているため、キーパーソンも話しやすい関係が出来ている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や幹部会議において職員の意見や要望を伝える機会がある	職員と管理者は何でも話せる関係が出来ていて、職員からの意見を取りまとめている。内容によっては、施設代表者と話し合うこともある。家庭環境に合わせた勤務体制を取るなど、可能な限り要望に応えるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の実績、勤務状況等を一律で評価し給与水準の整備に努めている。育児休業規定も整備され、安心して復帰できる職場環境にある		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は控えているが、内部研修等で働きながらトレーニングを進めている。資格取得の際、受験料は事業所が負担をしている	年間予定を立て、月に1回の内部研修を実施している。月ごとにテーマを決めて、緊急時や感染症予防などの研修を開催し、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お花見や運動会等を同系列の施設が合同で行い企画や準備等で協働している。また他施設での救命講習に参加させて頂き、質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔でご本人と向き合うことを基本として、目線の高さを同じにして話をする等、安心感を得られるように努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい関係作りに努め、何に困り悩んでいるのか引き出せるように努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス等でご本人の状態を知る努力をして必要な支援を見極められるように努めている。状態に応じ、見合った施設を紹介することもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上の仕事(洗濯物たたみや食器洗い等)で家庭での暮らしを思い出して頂き、協働しながら関係を築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や精神状態をご家族に伝えながら、ご家族から話を頂くこともあり、職員とご家族で情報共有をして、本人を支えていけるように関係を築いている		
21	(9)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に携帯電話を使って頂いたり、手紙のやりとりをしている。遠方のご家族とはリモート面会を勧め関係が途切れないように努めている	関連施設と合同で、花見や運動会、クリスマス会を開催し、事業所の垣根を越えた関係作りが出来る。定期的に顔を合わせることで、今までの馴染みの関係に、新たな馴染みも増え、笑顔があふれる集まりになっている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の把握に努め、孤立しないように職員が介入して利用者同士が関われるように努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性を大切に、ご本人やご家族の経過をフォローし相談にのっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で普段の生活の様子や身体状態の情報を共有して、本人本位で検討をしている	入浴や散歩時間は、職員と利用者がマンツーマンとなるため、利用者も気安く意向を話せ、楽しい話となっている。利用者が少しでも快適に過ごしてもらえるように、聞き取った意向は職員間で共有し、統一したケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り調査を行い、日々の会話の中からも情報を聞き出せるように取り組んでいる		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェックで健康状態の確認をしながら、会話から心身状態を探る。手を出し過ぎない支援を心掛けている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はユニット会議で意見交換をして現状に即した介護計画を作成したり、見直しをしている	新規利用から2ヶ月以内にプランの見直しをしている。その後は3ヶ月ごとにプランの検討をしている。日常的な変化は、申し送り等で情報共有をしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、特に通常と変化がある場合は記載するようにしている。個人毎に医療ノートを作成して状態確認できるようにしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では主治医と連携をとり、安全に過ごして頂けるように対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全に楽しく過ごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及び本人が希望されるかかりつけ医に定期的な受診体制ができています。また受診時等では主治医に情報提供を行い適切な医療が受けられるように努めている	協力医が月に1回訪問診療をしている。訪問歯科や他科受診についても職員が対応し、日常の変化や気づきを医師に直接説明することで、医療との関係性が深くなっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	R3.9から看護師を配置している。看護師には変化や気づきを報告し早めの対応を心掛けている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には身体及び心身状態を書面で提供している。ご家族からも情報を頂きながら、病院関係者と連絡を取り合い早期退院できるように取り組んでいる		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があれば、ご家族へどう変わっているか等の報告をして、必要に応じ話し合いを持ち、今後の方向性を決めて支援に取り組んでいる	看取り介護の対応もして、利用者の状態に応じて本人・家族や医師と話し合い、ケアの方向性を決めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	応急手当や急変時の対応等は定期的に研修を行っている。11月に離館が発生し、見守りやマニュアル確認を行った。R3.10には看護師指導による研修を行った	緊急時に備えて定期的な研修を実施している。離館時は、近隣のガソリンスタンドから連絡があり、地域の協力もみられた。離館の再発予防のため、施設入り口の門扉が設置された。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を行っている。内1回は消防派遣をお願いして、避難の様子の指摘や助言を頂き、職員間で検討している。コロナ感染の状況により地域住民の参加をお願いしている	非常災害に備えて、緊急連絡網に近隣の住民も入っている。ハザードマップ上では、災害区域ではないが、実際に避難場所まで避難したこともあり、避難経路の注意点も話し合っている。水、食料品、栄養補助食品などを備蓄していて、賞味期限を確認しながら更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プラス一言を添えて否定しない声かけの工夫をしている。プライバシー配慮しながら自己選択ができるような対応を心掛けている	呼称は「～さん」としている。認知症を患われている、年長者であることを忘れず、敬意を持った対応を心掛けている。手が離せず、直ぐに対応ができない時は、利用者に状況を説明し、理解してもらっている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動、表情に気を配り、視線を合わす等で思いが伝えやすい関係づくりに努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、利用者の動きに合わせてを基本としているが、業務優先傾向にある。今後も認知症研修を行い思いに寄り添えるように努めていきたいと考える		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化に伴い衣替えをしたり、好きな服が選べるように支援をしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶出し等、出来る事を分担して行っている。食事は職員が間に入り、昔の話、好みの食べ物の話等、色んな会話をしながら食べる様子も見て、楽しく安全に食事をしている	本部の管理栄養士が季節に応じた献立を考えているが、調理はユニットごとに調理担当の職員がいて、家庭的な食事を提供している。地元の食材が届けば、一品加えて食卓を賑わせる事もある。誕生日には、利用者と一緒にケーキを作ってユニット全体で祝っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたバランスのとれた献立に基づき、個々の能力に合わせて、普通食、刻み食、ミキサー食を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導も得ながら、個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して事前の声かけを心掛け、できるだけトイレで排泄できるように支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を使っている。排便状況も確認し、下剤等の調整にも役立っている。布パンツへ変更が出来るような利用者から「紙パンツの方が暖かい」と言われ、変更しないで様子を見ている事例もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、適度な運動で便秘予防をしている。便秘傾向の方は医師に相談をして緩下剤等で排便につながるように取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日は決めているが、希望やタイミングに合わせて対応をしている。個浴でゆっくり時間をかけて対応している	決められた入浴パターンにとらわれず、利用者の状況に合わせて対応している。冬至の日は、ゆず湯を楽しんでいた。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を心掛けているが、個々の状態により休息も取り入れた対応をしている。夜間はパッド等の見直ししながら安眠できるように支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の医療ノートを作成しており、状態変化はノートで確認できるようにしている。臨時薬がある場合は併せて申し送りノートに記載し、症状の変化の確認に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて役割づくりに取り組んでいる。個別に会話したり、散歩して気分転換ができるように支援している	利用者からの情報を基に、利用者が活躍できる場面を作っている。餅つきの時には、とても良い表情を見せながら慣れた手つきで餅を丸める姿もあった。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できない月もあったが、出来るだけ近隣を散歩したり、ドライブに出かける等、外出する楽しみを感じて頂けるように支援している	近所に藤の花やびわなどが見れる場所があり、外に出かける楽しみにもなっている。近くに駅広場もあり、桜や電車を眺めている。近隣までのドライブもしており、四季を味わい、春夏秋冬それぞれの風情を肌感じて頂いている。外出が難しい時期に施設内で初詣が出来るように鳥居を作って、手を合わせる姿が感動的だった。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中でお金を持ってないと不安になられる方もおられ、個人で管理をして頂いている。時には一緒に買い物に行って支払いされることもある		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方もおられ、充電等を管理して、好きな時に使って頂けるように支援している。手紙を書く機会はあまりないが、届いた手紙はご本人に渡し見て頂いている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は共有のフロアで過ごされる方が多いが、中には自室でテレビを見たり、雑誌を見る、横になる方もおられます。電気をつけたりエアコンで温度管理しながら、快適に過ごせるような工夫をしている	リビングに天窓もあり、自然の光が降り注いでいる。天井にシーリングファンもあり、空気も循環して快適な室温管理が出来ている。不快な音や匂いも無く、穏やかな空間が漂っていて、整理整頓も職員が気配りを以って整わせている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアに畳を置いて、新聞を大きく広げて読まれたり、生活リハビリとして洗濯物をたたむ場所として自由に使っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、使い慣れた家具を置いて頂き、ご自分の部屋と認識して頂けるような工夫をしている	ベッド・エアコン・カーテンが備え付けとなっている。自宅で馴染んだものを持ち込み、我が家らしく自由に置くことが出来る。自宅と変わらない生活を送って頂き、テレビや仏壇、家族の写真などで一人ひとりに合った居場所づくりをして、時の過ぎゆくままに落ち着いて過ごしていた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは段差なく安全に移動できる造りとなっている。トイレやお風呂にも手すりがあり、ご本人のできることをして頂きながら、できるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない